



平成 30 年 9 月 15 日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一
(コード番号: 6264 東証第二部)
問合せ先 取締役管理本部長 藤山 敏久
(TEL. 0996-64-2900)

平成 30 年 8 月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、その一環として、下記のとおり平成 30 年 8 月度の月次受注残高を開示いたします。

記

1. 月次受注残高 (百万円未満切捨て)

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
半導体分野	675	70.9%	△8.9%	22.4%
F P D分野	239	25.2%	△25.5%	△10.7%
その他分野	37	4.0%	388.3%	-
合計	953	100.0%	△11.0%	16.2%

2. 月次受注残高の推移 (百万円未満切捨て)

区分	H29.9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月
半導体分野	567	552	655	646	730	774
F P D分野	258	283	213	229	306	311
その他分野	5	3	13	16	19	6
合計	831	839	882	892	1,056	1,092

区分	3月	4月	5月	6月	7月	8月
半導体分野	788	814	785	811	741	675
F P D分野	323	362	360	344	322	239
その他分野	7	6	10	8	7	37
合計	1,119	1,183	1,156	1,165	1,071	953

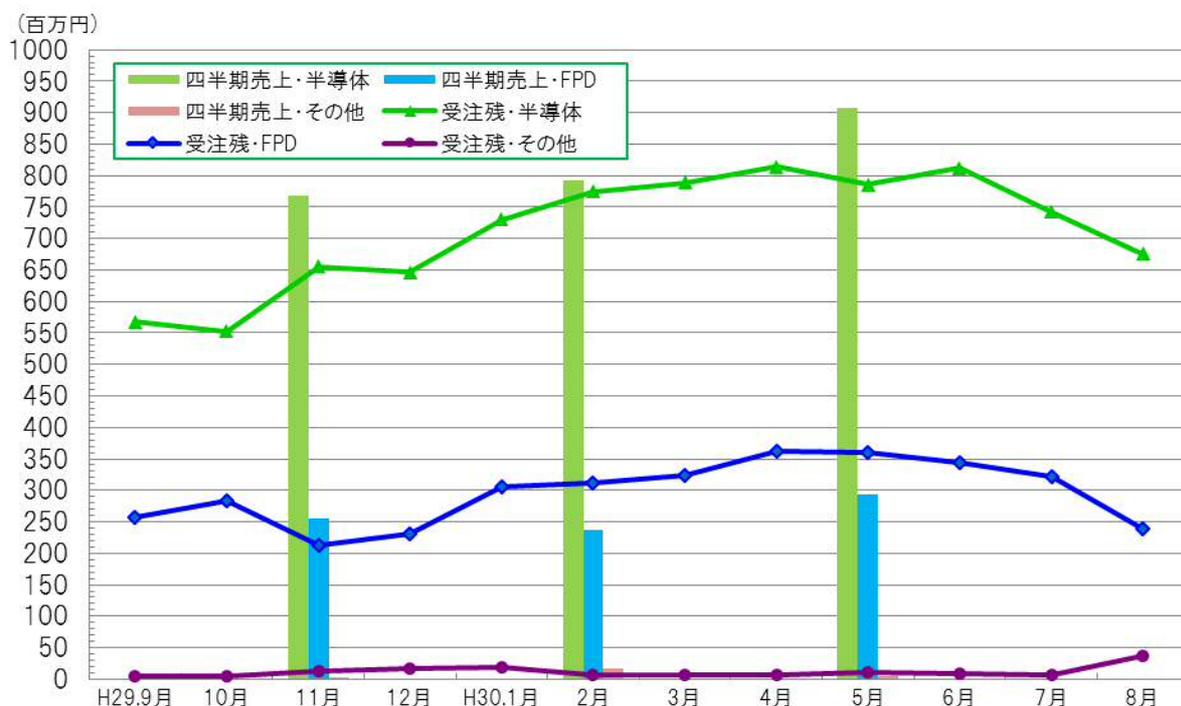
3. 月次受注残高の概況

平成30年8月末の受注残高は、半導体分野においては、受注に停滞感が出ているなかで出水事業所の稼働が上がり始め、出荷検収が順調に進んだことから、対前月増減率は8.9%減、対前年同月増減率では22.4%増の675百万円となりました。FPD分野においても、出荷検収は高水準に推移しながらも、中小型有機ELパネル向けを中心に受注が停滞したことから、対前月増減率は25.5%減、対前年同月増減率では10.7%減の239百万円となりました。その他分野においては、金額としては大きくはありませんが、スマートフォン向けの装置部品や、試作品レベルながらも中国向けに太陽電池製造装置の真空パーツを受注しております。これらの結果、平成30年8月末の受注残高は、対前月増減率11.0%減、対前年同月増減率16.2%増の953百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体分野では、一部エンドユーザーのメモリ向け投資は拡大しており、当社受注には消耗品受注も多く、新規装置の停滞ほどには受注は落ちない見込みです。また、複数顧客のフォーキャスト情報から9月を底に再拡大傾向が出始める見込みがあります。しかしながら、当社は出水事業所の稼働に伴い生産力が大きく向上していることもあり、数ヶ月間は生産量の伸びに対する受注の伸びが不足することで受注残は低下傾向となる可能性があります。そのような環境下であります。新規受注につながる試作品の受注拡大に注力し受注拡大を図ってまいります。FPD分野では、中小型パネル向けは停滞しながらも大型液晶パネル向けについては順調に推移していることから、当社は大型パネル向けに受注品種を転換していく方針ですが、受注が切り替わる数ヶ月間の受注残については停滞傾向となる見通しを持っております。その他分野につきましては、当社生産キャパの空きを活用し、スマートフォン向けの装置部品に若干の伸びが見込まれることと、太陽電池向けにも量産品受注に向けた営業活動を行っていく方針です。

以 上

(参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

注2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短く当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。